

これは夢をみているのか？  
強豪国に混じって日本が6位  
でリレーする。それはオーロ  
ラが見せた一瞬の煌き。日本  
が長く求めていた一筋の光。

スキーO世界選手権大会 2005  
2005年3月5日(土)-12日(土)  
フィンランド・レヴィ

## リレー男子1走・堀江が快走

4走・元木は堀江のレースをこう語る。  
「堀江君が強国に混ざって1走6位で  
帰ってくる。上には北欧のスウェー  
デン、ノルウェー、フィンランドと  
ロシア、スイスしかいない。日本の  
OL界にとって衝撃的な出来事を目の  
当たりにした。これだけでも今回フ  
ィンランドの世界選手権に参加した  
価値がある。」(元木 悟)

堀江自身はレースを冷静に確実に進  
めたいらしい。

「ロングとはうって変わって、出走し  
ている選手の数は少ない。それでも  
途中で一人二人と視界に捉えること  
ができた。トラックが複雑な部分で  
はスピードを抑え、確実にレースを  
進める。」



堀江、会場を猛スピードで通過

ビジブルポイントを通過した時のみ  
んなの声援が熱かった。その熱でヒ  
ートアップしてはせっかくのレース  
を台無しにしかねない。最後の最後  
まで落ち着いた自分のレースをする  
ことが大切だ。

とっさに出た「落ち着いて！」とい  
う言葉と共に2走の高橋さんへタッ  
チした。その後すぐにレースを終え  
た女性メンバーが興奮した空気を運

## Ski-O WOC 2005, Relay MEN Situation in relay 1. leg, Change-over 7,7 km

1	4		Sweden	25:25	Tobias Åslund	25:25
2	1		Russia	+37	Andrei Gruzdev	26:03
3	3		Finland	+54	Jukka Lanki	26:20
4	2		Norway	+1:28	Eivind Tonna	26:54
5	5		Switzerland	+2:09	Peter Mosimann	27:35
6	11		Japan	+2:49	Morihiro Horie	28:15
7	7		Lithuania	+3:29	Nerijus Sulcys	28:55
8	15		Czech Republic	+3:48	Jan Lauerman	29:14
9	6		Estonia	+4:20	Margus Hallik	29:46
10	17		Germany	+4:51	Bernd Kohlschmidt	30:17
11	14		Bulgaria	+5:12	Stanimir Belomazhev	30:38
12	8		Italy	+5:13	Mauro Simoni	30:39
13	13		Austria	+5:20	Stephan Varga	30:46
14	10		Latvia	+5:53	Toms Veits	31:19
15	9		Ukraine	+7:10	Andriy Borys	32:36
16	18		Ireland	+14:50	Rory Morrish	40:16
17	12		USA	+17:23	Carl Fev	42:49

男子リレー1走終了時の速報。日の丸が高い位置に登っている。

日本が上位を走る日が現実になった瞬間だ。

んできた。どうやら今までにない会  
心の順位だったらしい。話を聞いて  
自分も興奮した。6位。それは世界の  
舞台での入賞ラインだ。そのライン  
の内側で自分は戻ってくることがで  
きた。正直嬉しかった。」(堀江守弘)

## 日本男子が<戦えり>

1走・堀江こそ上位に立てたものの、  
まだまだ強豪国との力の差は歴然。そ  
の後は順位を落としてゆく。終わって  
みれば14位。アメリカにはさすがに負  
けないが、ラトビアやドイツには僅差  
で敗れている。

今回堀江と並んで注目の日本選手で  
あった高橋直博はこうレースを振り返  
る。

「一走堀江君の快走。私も後ろに続  
かなければ、というより自分の滑りを  
するのみ、と意外に落ち着いていたの  
を思いだす。このレースに関しては完  
全に一人旅だった。どこかで後続に抜  
かれているのだろうけど。」(高橋直  
博)

高橋直博はフィンランドに在住し、  
スキー技術や滑走速度は他国選手に全  
く引けをとらない。だが競技にオリエン  
テーリング要素が加わると差がつけ

られてしまう。ここで中堅国にごっそ  
りと抜かれ、3走でのチェンジオーバ  
ーではドイツ、ラトビアとの勝負になる。

アンカーで主将の元木悟の奮闘する  
が、スキー速度で地力の差が出てくる。  
「下りではドイツと併走したが、何度  
もやってくる登りで徐々に離されて  
ゆく。その後も下りと平坦部でラト  
ビアの選手と競り合いになり、私が  
先行しては追い越されるという状態  
がしばらく続いた。その後コントロ  
ール位置の違いからあっさりおいて  
行かれる。なんとか追いついたもの  
の、モービル道の登りで私がモタモ  
タしているうちにThe END。本当に今  
回は登りのスキー技術で負けた感じ  
である。」(元木悟)



## 女子リレー日本 9 位！

結果的にはヒトケタ順位。数年前は女子リレーに参加することすらできなかった時代もあったことを考えると、安定してヒトケタ順位が出せることは進歩である。今後はこれをどれだけ上位に伸ばしてゆけるか期待したい。

女子リレーに 3 人のフルメンバーを揃えることができたのは 10 カ国。そのなかでも USA は飛びぬけて遅い。残る 9 カ国のなかでどこまで戦えるかが今後の課題となる。

日本の前を走るブルガリアですら日本の 87%のタイムだった。この圧倒的なスピードの差を詰めることができるのか？ 今回女子で優勝したノルウェーは日本の 65%のタイム。まだまだ世界のカベは高い。

「私個人としては非常に悪いレースをしてしまい、チームには申し訳ないことをしてしまった。明らかに地図読みが後手にまわり、とりあえず他の選手についてゆこうという弱気のレースになってしまった。3 番ポストで完全に置いてきぼりになり、その後も全く冷静さを欠いたレースをしてしまった」(1 走・酒井佳子)



「今回の大会では気持ちはリレーに向けてきた。孤独なレースとなりスピードが出せなかった。大きなミスはなかったが満足なレースとはいえなかった。」(2 走・植野由香)



「結果的にはひとつ前のブルガリアに 15 分の差を付けられた結果になり、3 人それぞれがもっと努力しないと上位入賞はできないシビアな現実を実感しました。」(3 走・元木友子)



### リレー男子

1	ロシア	1:15:49
2	フィンランド	1:16:20
3	スウェーデン	1:18:23
14	日本	1:43:28

### リレー女子

1	ノルウェー	1:17:11
2	スウェーデン	1:17:50
3	フィンランド	1:18:16
9	日本	1:57:18

## 長かったロング

「レースは予想通りタフなものだった。ただただ我慢して 1 レッグづつクリアしてゆくというレース。最後の 4 周目で日本人 3 人のパックになった。このときに体力的に一番余裕があるのが自分だと確信して振り切った。」(山田敦史)

25.5km という距離を戦う男子ロング。持久力の面で多くの日本男子選手が課題を残した。



ロングでマップ交換、給水の山田

18.1km の女子ロングで酒井佳子は快走を見せる。32 位トップ比 127%。

「途中ブルガリアの選手とすれ違った。昨年は手も足も出なかった選手だ。このレッグで勝てないか、スピードを上げた。6 ポをとって登っていると

ブルガリアの選手がポストめがけて下ってきた。」(酒井佳子)

日本選手のステップアップは男子だけではない。女子にも期待したい。

今シーズンの努力によって代表入りした高橋美和もこのロングを完走している。

「完走できるかどうか心配だった。慎重に繰り返し地図を確認しているうちに 2 ポくらいからほとんどの人は居らず、ずっと一人でレースをしている状態で、とてもゆっくりしたペースだったと思います。天気も良く、とにかく気持ちが良く制限時間にも間に合い、結果的に 3 レース中一番楽しいレースでした。」(高橋美和)

## 2009 日本に向けて

スキーマ0 世界選手権が 2009 年に日本にやってくる。選手強化はますます重要になるだろう。スプリントもミドルも今回はいまいちバツとしない結果に終わったが、こちらも今後の課題だ。



幸山敏克の教え子たちが作った応援横断幕を会場に掲げる。青森県立むつ工業高校のみんな、みててくれ！



幸山、世界選手権 2 番スタート  
(日本スキーマ0 研究会)